

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら江戸川台教室(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	令和7年 7月 15日 ~ 令和7年 7月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 17名	(回答者数) 16名		
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 2日 ~ 令和7年 9月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 10名	(回答者数) 10名		
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 20日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	庭があり、自然と触れ合う活動や水遊びや砂場遊びなどで体験的な遊びも展開できる。	天候によって、屋外活動が難しい時期もあるので、屋外活動ができる時期には、充実した時間を持てるように準備を整えておく。	屋内、屋外ともに活動内容が固定化しないように、職員間でアイディアを出し合っておくことや、発達に合わせた活動を考えていけるようにする。また、安全面も十分に考慮し、定期的な点検を行う。
2	立地が駅前ということもあり、信号や踏切といった交通ルールを学ぶ環境が整っている。	散歩に出る日は、ルートを職員間で良く打ち合わせを行い、安全に交通ルールを学ぶルートを考えておく。子どもたちの並ぶ順番や職員の配置も丁寧に決めておく。	工事やイベント情報をしっかりと把握し、危険のないように外出する。途中で危険と判断した場合には、引き返す、ルートの変更をして安全を確保する。
3	系列5教室あるため、ヒヤリハット、活動のアイディア、研修内容の共有などが行える。情報共有を行うことで、視野を広く持てる。	管理者会議やミーティングで、教室内の事例共有のみではなく、他教室の事例も共有する。必要に応じて、オンラインなどで直接話し合う機会を設けている。	共有した情報をそのまま使うのではなく、自分の教室の実態に照らし合わせて、教室の運営に反映していくようとする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園などの地域他施設と、児童発達支援管理責任者等の職員の情報共有の場はあるが、子ども同士の交流が実施できていない。	感染症や安全面を考慮すると、交流する機会を設けることが難しい。季節を問わずインフルエンザや溶連菌などが流行する傾向もあり、計画に踏み切れていない。	室内では難しさがあるが、公園などの屋外で一緒になることもあるので、そういう機会を逃さずに関わっていけるようにする。
2	地域に開かれた行事の開催など、地域に開かれた事業運営ができていない。	個人情報の問題や感染症の心配もあり、不特定多数の地域の方との交流は実施できていない。特に保護者の方の中にも関わりを求めていない場合があるので、慎重にならざるを得ない。	外出先での施設の方、その場にいらっしゃった方との関わりを大切にし、挨拶などを学んでいく機会にしていきたい。
3	パート職員、フルタイム職員、正規職員と様々な勤務形態がありシフト勤務のため、情報の共有に時間がかかったり、全員でのミーティングが難しかったりする。	出勤日数の違いや出勤時間の違いがあるため、同じタイミング同じ話を聞くことが難しい。書面等での引き継ぎや個別の打ち合わせになることがある。	誰が見ても分かりやすい引き継ぎ書面やミーティング議事録を作成し、管理者・児童発達支援管理責任者を中心に個別にしっかりと説明を行っていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら江戸川台教室（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和7年 7月 15日 ~ 令和7年 7月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数)	27名
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 2日 ~ 令和7年 9月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 20日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	庭や公園があり、戸外活動も取り入れて、幅広い活動を行える環境がある。	人数や活動に応じて、時間を分けて屋外活動と屋内活動を組み合わせている。屋外では、野菜の栽培を行い、食育にもつなげている。	屋内、屋外ともに活動内容が固定化しないように、職員間でアイディアを出し合っておくことや、発達に合わせた活動を考えていけるようにする。また、安全面も十分に考慮し、定期的な点検を行う。
2	様々な経験を持つ職員が、年齢層豊かに所属している。各々の得意を活かして、支援の幅を広げている。	製作、運動、音楽等、それぞれの得意を活かした活動をこどもたちの発達に合わせて組み合わせている。また年齢幅もあるため経験値もあり、様々なアイディアを出し合って支援にあたっている。	プログラムの目的、個々の発達を見失わずに、プログラムの進め方を話し合っていけるように、ミーティングや打ち合わせを綿密におこなっていく。
3	系列5教室あるため、ヒヤリハット、活動のアイディア、研修内容の共有などができる。情報共有を行うことで、視野を広く持てる。	管理者会議やミーティングで、教室内の事例共有のみではなく、他教室の事例も共有する。必要に応じて、オンラインなどで直接話し合う機会を設けている。	共有した情報をそのまま使うのではなく、自分の教室の実態に照らし合わせて、教室の運営に反映していくようとする。

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもたちの年齢が上がってきているので、教室での活動や動線の確保に工夫が必要。制服からの着替えが必要なこどもも増えてきているので、場所や時間の調整も必要。	学習をしたいこども、プログラムに取り組みたいこども、着替えにいきたいこども等、年齢によって必要なことが増えている。着替え場所や学習場所の確保も必要。トイレも一つのため、人数を考慮して時間配分が必要。	下校時間のずれを上手に活用して、コーナー分けを行う。着替えは本人たちのスピードやプログラムの合間を見つけて、順番を組み手していく。
2	パート職員、フルタイム職員、正規職員と様々な勤務形態がありシフト勤務のため、情報の共有に時間がかかるたり、全員でのミーティングが難しかったりする。	出勤日数の違いや出勤時間の違いがあるため、同じタイミング同じ話を聞くことが難しい。書面等での引き継ぎや個別の打ち合わせになることがある。	誰が見ても分かりやすい引き継ぎ書面やミーティング議事録を作成し、管理者・児童発達支援管理責任者を中心に個別にしっかりと説明を行っていく。
3	市内のこどもの増加もあり、外出行事の場所選びが難しい場合がある。	市内ではこどもの増加が著しく、市内、近隣の市の大きな公園や公共施設の利用が難しいことが増えてきた。今まで利用できていた施設も、時間や人数の制限があるところも出てきている。	時期をずらしたり、新しい施設の開拓を検討する。新しい情報を得られるようにアンテナを張り、リサーチをしていくこと。また既存の活動に囚われすぎず、柔軟な考え方をしていく。